

現代数学と紙のアート

2023 年 8/5 (土) ~ 12/6 (水)

会場 | 九州大学 伊都キャンパスフジイギャラリー ギャラリー 1

開館時間 | 10:00~17:00 入場料 | 無料

休館日 | 土・日・祝日 (8/5,6 その他イベントの際は開館予定)

主催 ● 九州大学総合研究博物館

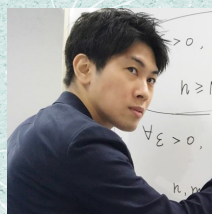
後援 ● 九州大学理学部、九州大学大学院数理学府、
九州大学マス・フォア・インダストリ研究所

数学の魅力を繊細な切り絵で表現するアーティスト、岡本健太郎さんの日本数学会出版賞受賞を記念し、個展を開催。作品の特徴として、現代数学の抽象的な世界を鮮やかな色彩と精緻なデザインで描き出し、切り絵という絵画手法で一枚一枚手作業により紙を切り抜いています。展示作品は、フラクタル図形、位相幾何学(トポロジー)の概念など、さまざまな要素を取り入れ、数学の多様な世界を味わうことができます。

この個展では、今までにない数学の「美しさ」や「面白さ」など、新たな視点を提供し、数学に興味を持つ方やアートを楽しむ方に向けて、驚きと感動を伝えることを目標としています。また、作品は数学の知識がなくても鑑賞できるだけでなく、数学への探求心や洞察力が刺激されるものとなっています。数学の魅力と芸術の融合を楽しむ機会として、ぜひご来場ください。

①「ハイボトロコイド」と言われる曲線を一般化し、複雑な曲線を切り絵にした。パラメータの値を変えると大きく形が変わる興味深い曲線で、1つ1つの穴は非常に小さく0.1~0.2mmというレベルのカッティングを手作業で行った。②3次元空間内の球面(2次元球)をスライスすると断面は円(1次元球)になり、これは次元を上げても同様のが成り立つ。この作品は4次元空間内の球(3次元球)をモチーフにした作品で、次元を行き来するドラゴンも切り絵で表現している。③数学や物理学の世界で登場するカラビ・ヤウ多様体と呼ばれる研究対象をモチーフにした。特にこの作品の図形は $z_1^5 + z_2^5 = 1$ を満たす複素数解の集合として描写されるもので、比較的シンプルな数式から思いもよらない複雑で美しい模様が現れるいい例である。

岡本 健太郎



理学部 数学科 2013 年卒業 数理学府 博士課程 2018 年修了

数学講師兼チーフデザイナー/切り絵作家として活動。

幼い頃から親しんできた書道の文字を「立体的に浮かせたら面白そうだ」と思い、その表現方法として切り絵に興味を持つ。切り絵と数式が作り出すグラフや幾何学的なデザインは親和性があるため、作品のモチーフに数学を取り入れている。

著書『アートで魅せる数学の世界』技術評論社 2021ほか



岡本さんの活動や作品はこちら: https://www.instagram.com/kentaro_okamoto/

■交通案内 ※当ギャラリーへは、公共交通機関でお越しください。

九州大学伊都キャンパスセンターゾーン、椎木講堂と中央図書館の間にある白い建物。中央図書館のエレベーター利用可能。

九州大学伊都キャンパスへは、博多駅より市営地下鉄・JR・昭和バスを利用して約45分、博多駅より西鉄バスを利用して約50分。

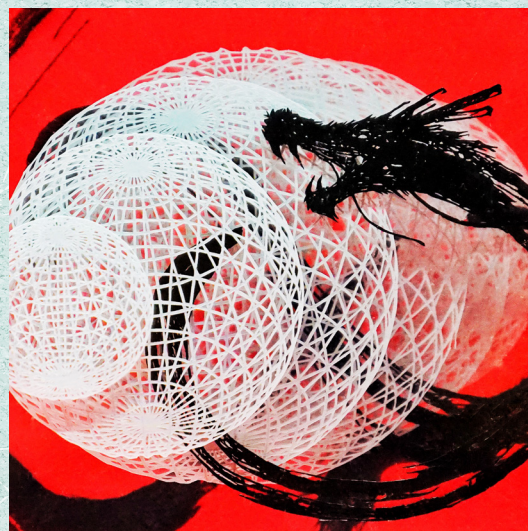
The Fujii Gallery

フジイ
ギャラリー

〒819-0395 福岡市西区元岡744
Tel: 092-802-6973
<https://fujiigallery.kyushu-u.ac.jp>



① corazón



② 4-dimensional dragon



③ Complexity

